関東森林管理局
森林技術・支援センター
概　　要

渓畔域の植生回復試験（御前山ケヤキ展示林）　カタクリ回復状況

ようこそ、森林技術・
支援センターへ
当センターのお仕事を
紹介します！

森狐（しんこ）くん

森林技術・支援センターの業務等

平成7年3月に国有林を利用して行う森林・林業に関する技術の開発、指導及び普及を行うことを目的として、旧東京営林局の新しい機関「森林技術センター」として発足しました。その後平成１６年4月に組織機構改革により、関東森林管理局森林技術センターとなりました。

平成２５年4月に一般会計に移行したことに伴い、「森林技術・支援センター」となり、国有林だけを対象とした技術開発を行うだけではなく、森林の有する公益的機能の高度発揮等に対する国民の要請に対応しつつ、民有林への普及を念頭にした林業の低コスト化等に向けた技術開発を推進するとともに、その成果を国有林野の管理経営や民有林への普及・定着に取り組むこととしています。

また、現地検討会の実施や民有林の人材育成への支援及び技術開発成果の情報発信等により森林技術の普及・推進に努め、地域の林業振興に寄与することとしています。

沿　革

平成　７年	３月	東京営林局 森林技術センターを設置
平成１６年	４月	関東森林管理局 森林技術センターに改称
平成２５年	４月	関東森林管理局 森林技術・支援センターに改称

森林技術・支援センターの組織

組織図

農林水産省　林野庁

↓

関東森林管理局　森林整備部

↓

森林技術・支援センター

- 所　　長
- 副　所　長
  - 森林技術専門官
  - 業 務 係
  - 企 画 係
  - 地域技術官
  - 森林技術普及専門官（利根沼田署駐在）

アクセス図

技術開発課題の紹介

１．点検・補修を含めたシカ柵コスト最小化に向けたコスト把握手法の確立

●場所：関東森林管理局管内国有林
●期間：令和４年度 ～ 令和６年度
●共同研究機関：森林総合研究所

●概要：シカ柵の情報の収集の仕方を検討・試行し、情報を収集・分析することにより、維持管理コストを含めたシカ柵コストの把握手法を確立します。 また、得られた成果や情報を、国有林の取組に活用するとともに民有林関係者に発信し、地域の森林・林業の課題解決に取り組みます。

●取組内容

■シカ柵について、資材種・設置方法ごとの点検にかかる人工数、補修の形態や原因及び補修経費といった維持管理コストにかかる情報の収集の仕方を検討・試行します。
■合わせてシカの生息密度や立地条件、植生等の関連情報を収集します。
■これらの情報を解析し、シカ柵の維持管理経費に影響を与える因子を抽出します。
■抽出した因子の値を入力または選択肢を選択することにより、シカ柵設置の検討時に、現地条件に応じたシカ柵の資材種・設置方法の比較検討ができる「シカ柵総経費算出シート（仮称）」を開発し、シカ柵トータルコストを可視化します。

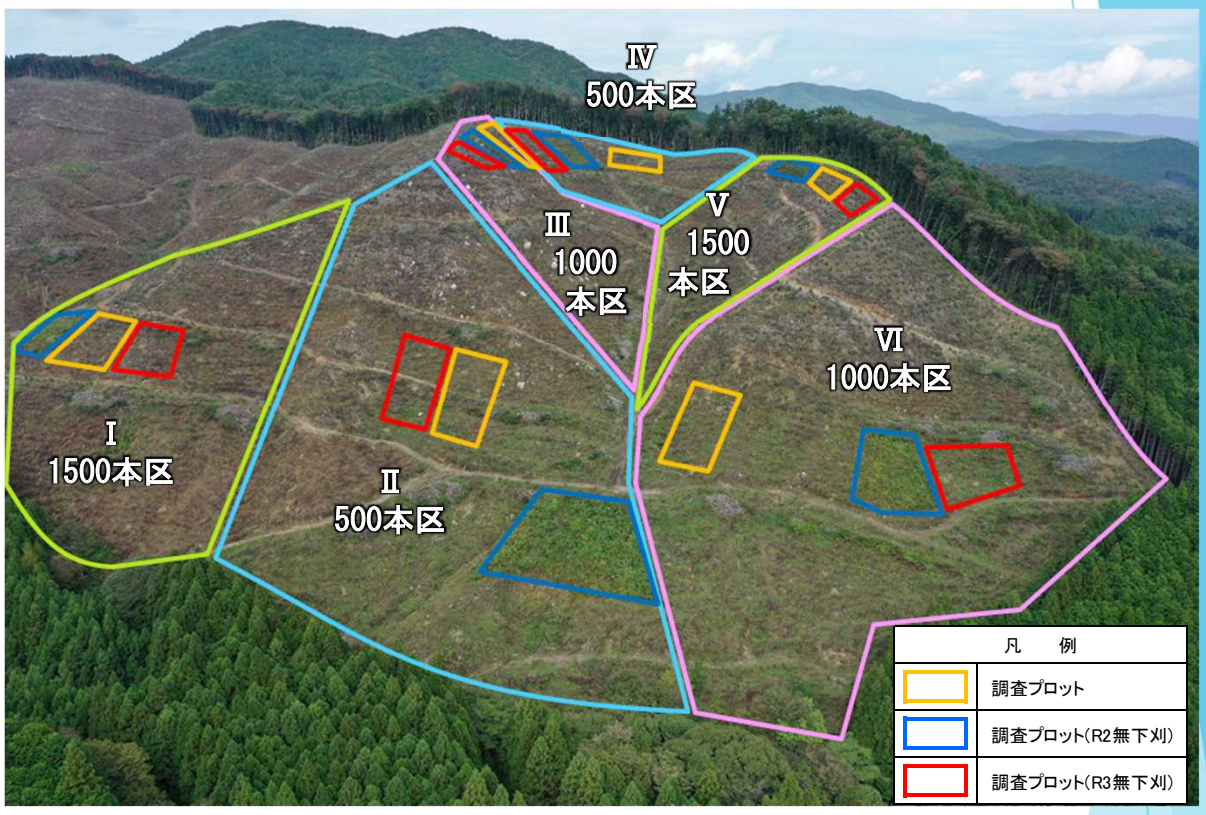
獣害防護柵の設置（ネット）
（伊豆森林管理署）

深刻な食害を受けた苗木
(左：スギ、右：カラマツ)
（群馬森林管理署）

獣害防護柵の設置（金網）
（伊豆森林管理署）

２．大苗植栽による長期密度管理施業観察試験

●場所：茨城森林管理署管内
　　北茨城市関本町冨士ケ丘　高帽国有林１０３９ほ１林小班
●期間：平成３１年度 ～ 令和５年度
●共同研究機関：森林総合研究所
●概要：再造林コスト削減及び様々な目標林型に最適な林分密度の解明を目指して、植栽密度の異なるスギ植栽試験地を設定しています。大苗による低密度植林を導入した場合の造林功程の検証、さまざまな微地形に対応した最適植栽密度の解明、大苗による下刈り省略の可否を検証します。



成育状況（Ⅴ2020. 10）

■プロット設定
●植栽本数
① 500本/ha
② 1,000本/ha
③ 1,500本/ha

■植栽苗
80cmスギ苗（規格外）

■下刈回数
３回程度実施

■調査項目
・樹高　・根元径
・枝張り　・競合状況
・競合種

３．下刈時期及び立地条件を考慮した下刈省力化技術の開発試験

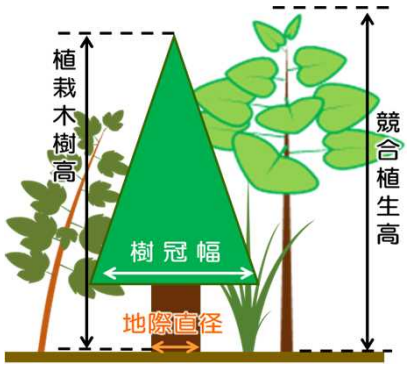
●場所：①茨城森林管理署管内
　　茨城県東茨城郡城里町大字錫高野 梅香沢国有林２２け林小班
　　②福島森林管理署白河支署管内
　　福島県石川郡古殿町大字大久保 ヲテマ国有林1241や林小班他
●期間：①平成３０年度 ～ 令和４年度
　　②令和２年度 ～ 令和５年度
●共同研究機関：森林総合研究所
●概要：人工林施業のなかで最も費用と労力を必要とする夏季における下刈作業の省力化を図るために、夏季以外の春季や冬季の下刈の可能性及び植栽木及び下刈対象木となる雑草木の成長は林分内でばらつきがあるため、立地による下刈省略化への影響も併せて検討します。

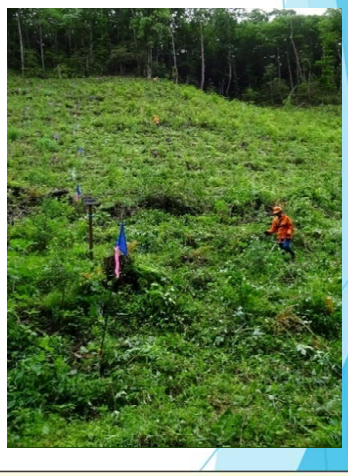
プロット内調査方法

■調査時期
　８月（夏下刈前）

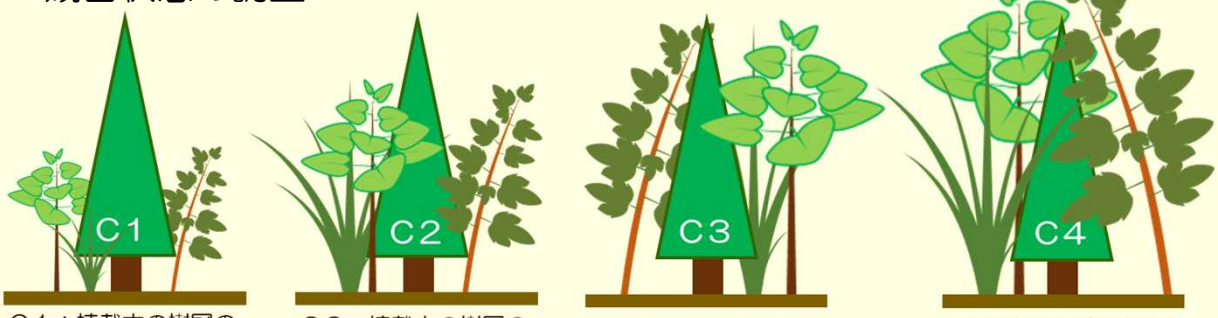
■下刈時期
　①夏下刈（ 9月）
　②春下刈（ 5月）
　③冬下刈（12月）

■植栽木・競合植生の調査
（植栽木の半径50㎝）





■競合状態の調査



Ｃ１：植栽木の樹冠の半分以上が出る
Ｃ２：植栽木の樹冠の先端が出る
Ｃ３：植栽木と競合生が同程度
Ｃ４：植栽木が競合植生に完全に埋もれる

民有林支援・技術の普及等の紹介

令和５年度　実施事項

１．試験地の活用

（１）見学コース

筑波複層林試験地を手始めに、各種試験地を活用した見学の受け入れに取り組みます。講師等は当センター職員が担当し、対象者は県市町村の林務関係担当者および民有林の管理経営に携わる関係者等を想定しています。

（２）体験林業（収穫調査）

見学と併せて、要望あれば体験林業（収穫調査）が行えるよう、機材等準備中です。講師等は当センター職員が担当し、対象者は県市町村の林務関係担当者および民有林の管理経営に携わる関係者等を想定しています。

２．情報発信

（１）市民向け森林・林業公開講座

森林技術・支援センターでは、職員が技術開発課題で取り組んだ成果及び各研究機関等の研究成果を県内林業関係者や森林・林業に関心のある一般の方々に国有林の取組や森林・林業について理解を深めていただくことを目的に森林・林業公開講座を実施します。

（２）HPによる発信

局技術開発課題及び自主課題にかかる成果、森林・林業技術等交流発表会、関東森林学会、森林・林業公開講座にかかる資料、生物多様性と希少植物同定の参考となる資料や当センター等が開催する現地検討会について、配布資料及び動画等をホームページに掲載しています。

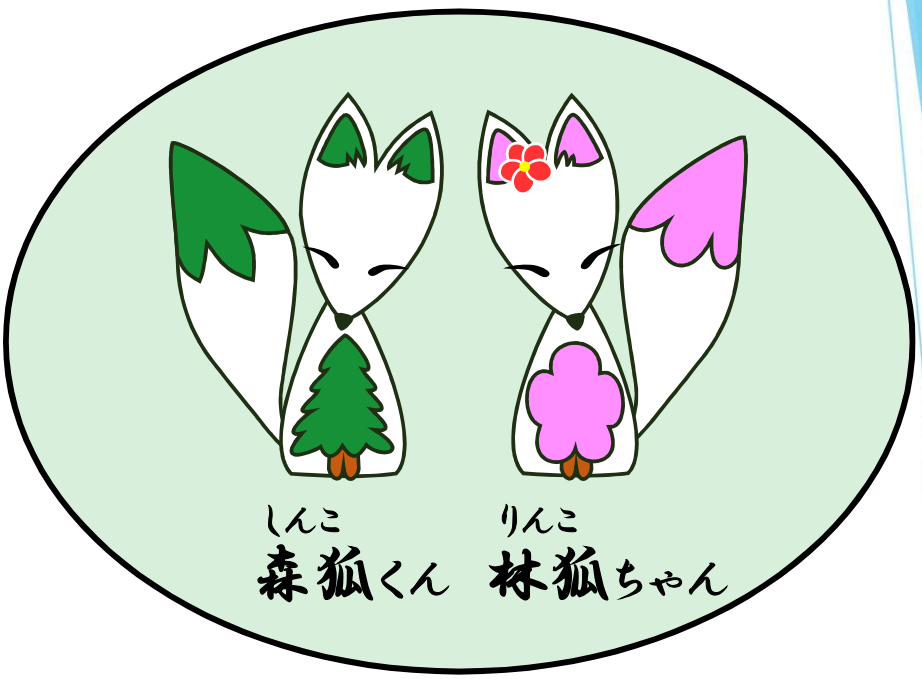
（３）現地検討会

●下刈省力化技術の開発試験

森林総合研究所と共同で研究開発している、下刈省力化のため、下刈り時期を変え、夏季以外に春季や冬季に下刈を実施した試験地を紹介します。人工林施業のなかで最も労力と身体的負担が大きい夏季における下刈作業の省力化の可能性を検討します。

●その他

各種新技術の実証・普及のため、現地検討会の開催に取り組みます。



国民の森林・国有林

関東森林管理局
森林技術・支援センター
〒309-1625　茨城県笠間市来栖８７－１
ＴＥＬ：0296-72-1146
ＦＡＸ：0296-72-1842